

◎生産履歴を正しく記載して消費者に安心を届けよう。◎農薬の飛散(ドリフト)に注意しよう。◎農薬の使用基準を厳守しよう。

◎種れんこんの選抜を行い、品質の向上につとめよう。◎適正な廃プラ処理を行いましょう。◎土壌診断に基づき、効率的な施肥管理に心がけよう。

作型	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	備考
ハウス栽培	(基浅ビ)代 ニ く か 耕 ル 被 き)肥起覆)			ハ 褐 ウ 斑 ス 病 換 防 気 除	褐 収 斑 斑 病 病 防 防 除 除	追 ア ア ア 追	整 種 芽 の 植 地 付	追 種 芽 の 植 地 付	追 種 芽 の 植 地 付	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 収穫後の注意 褐斑病防除のため、収穫後の茎葉は一ヶ所に集めて、ビニールで覆う(菌の飛散防止) </div> (1) 生育初期はやや深水とする。 (2) ながれ葉中は換気の必要がない。 (3) pHがあがったときは水を入れかえる。 (4) 浮草は早期に除去する。 (5) ハウス内は30℃前後で換気。40℃以上では葉焼を起こす。特に4月10日頃から換気をまめにする。 (6) 種芽は掘り取り後2~3日緑化して植付。 (7) 種芽の植付は7月20日までがよい。 (8) 生育が不良のときは2月に補植する。
トンネル栽培(早出し用)	石 灰 窒 素	基 代 植 ト ン ネ ル が 肥 き 付 け	換	ト ン ネ ル シ ン 除 去	追 ア ア 追	追 ア ア 追	褐 追 斑 斑 病 病 防 防 除 除	褐 追 斑 斑 病 病 防 防 除 除	褐 追 斑 斑 病 病 防 防 除 除	(1) 4月下旬より高温障害に注意しましょう。ビニール巾 180~210cm (小トンネル) 条間3~4m 株間60~80cm (2) 残渣の分解を促進するために石灰窒素は掘り取り後速やかに施用・十分耕うんし適湿を保つ。(普通栽培も同様)
普通栽培	石 灰 窒 素	基 代 植 ト ン ネ ル が 肥 き 付 け	換	ト ン ネ ル シ ン 除 去	追 ア ア 追	追 ア ア 追	褐 追 斑 斑 病 病 防 防 除 除	褐 追 斑 斑 病 病 防 防 除 除	褐 追 斑 斑 病 病 防 防 除 除	条間3~4m 株間0.7~1m カモ対策……植付け後ポリフィルムをべたがけするなどし、被害をふせぐ。 アブラムシ対策……浮草の除去(4月までに除去する)。(5月) 畦畔ぞいは重点に防除する。

普通栽培作業暦		施肥設計 (10a当り)							
月 旬	作 業 要 項	施肥例	基 肥	追 肥	5 下	6 上	6 中	6 下	成 分 量
収穫後 1月下	圃場清掃 褐斑病と越冬害虫防除のため茎葉、雑草を処分する。 石灰窒素 植付けの1ヶ月前までに施し耕起する。 土壌分析しpHが高い場合は石灰資材の施用量に注意する。	1	石灰窒素 60~80kg ピカイチ 160~240kg	(基肥一発)					N31.2~44.8 P20.8~31.2 K20.8~31.2
3中	基肥施用 植付けの7~10日前までに全面に施す。 草の多い田では早めに行い、土を落ちつかせたのち植付ける。	2	石灰窒素 60~80kg スーパーれんこん又は B.Bれんこん専用 160kg	スーパーれんこん 又はB.Bれんこん	80				N36.0~44.8 P26.4~36.0 K28.8~36.0
3下	種れんこん 無病のものを選ぶ、1株2~3芽のもの。 条間3~4m 株間0.7~1m、芽先を下げて植付ける。	3	石灰窒素 60~80kg BMリンスター 40kg けい酸加里 30kg	固形V28号		80		120	N32.0~36.0 P28.0 K26.0
4上	カモ対策 植付け後、ポリフィルムをべたがけする。	4	石灰窒素 60~80kg BMリンスター 40kg けい酸加里 25kg IBれんこん化成1号 100kg	NK化成2号	20				N39.2~43.2 P36.0 K32.2
5上	浅水管理 立葉発生期から浅水とし水温を上げる。腐敗病多発田は深水とする。 アブラムシ防除 発生初期の防除に努める。粒剤を使用する場合は、浅水にして散布する。 畦畔雑草や浮草は発生源になるので重点に防除する。	5	石灰窒素 60~80kg BMリンスター 60kg けい酸加里 20kg れんこん有機配合 160kg	固形V28号	80		100	80	N44.0~48.0 P40.4 K36.0
5中	除草 浮草の発生初期にモグロ粒剤2kg/10a(収穫45日前まで/3回以内)を湛水散布。 第1回追肥 立葉2~3枚前後を目安とする。	6	BMリンスター 60kg けい酸加里 40kg 固形V28号 80kg	ハウス					N8.0 P24.4 K16.0
6上	アブラムシ防除 ダントツ水溶剤2,000~4,000倍(収穫7日前まで/3回以内)等を散布。	7	石灰窒素 60~80kg BMリンスター 60kg けい酸加里 30kg 固形V28号 90kg	トンネル (早出し用)	1			10	N21.0~25.0 P25.2 K45.0
6中	第2回追肥 立葉4~5枚頃。地下茎の伸長期。 腐敗病多発田は、葉が水面を覆うまでの間深水管理とし、水温を上げないようにする。	8	石灰窒素 60~80kg BMリンスター 60kg けい酸加里 30kg 固形V28号 90kg	2					N36.0~40.0 P26.4 K28.8
6下	褐斑病防除 トップジンM水和剤1,500倍(収穫前日まで/3回以内)またはトップジンM粉剤DL3~4kg/10a(収穫前日まで/3回以内)を散布。 止肥 腐敗病多発田は止肥を早めに打ち切り、根の肥大をすすめる。	9	備 考						・作付の遅い場合は減肥する。 ・アズミン80kg、みつパワー100kg、FTE4kgは地力維持、及び微量要素補給に効果がある。 ・異常還元田では5月中旬頃に水の入れ換えをすと還元防止の効果がある。 ・苦土欠乏症状が見られる圃場は水マグ等の苦土資材を施す。 ・ゆず肌症多発田では、すじ掘りをせず早期総掘りを行い、収穫後の茎葉を腐敗させるため、石灰窒素の施用、耕うんを行い、適湿を保つ。
7上	褐斑病防除 トップジンM水和剤1,500倍(収穫前日まで/3回以内)またはトップジンM粉剤DL3~4kg/10a(収穫前日まで/3回以内)を散布。								
8	水管理 水を切らさないように管理する。								
9	落 水 収穫の5~10日前。 すじ掘りは0.8~1mを残し、4mを掘る。 腐敗病多発田は収穫後常時湛水する。								

病害虫の防除	太陽熱石灰窒素消毒法による土壌消毒の処理手順																																										
腐敗病 ◎太陽熱石灰窒素消毒法(腐敗病多発田では、右記手順参照) ◎発病田では掘取後、冬季湛水する。 ◎種れんこんは無病のものを選ぶ。 ◎多発田ではロータスなどの品種を用い、早掘り栽培とする。 ◎田面をよくならし、畦畔を高くして深水とし水温と地温を下げる。 ◎肥料の三要素のバランスをよくする。止肥は6月下旬に終わり、根の肥大を促す。 ◎下記の作型を活用して被害を少なくする。 トンネル栽培 トンネル栽培により早出しを行い、腐敗病を回避する。 2年掘栽培 激発田は湛水越年し、2年目に早掘りする。	時期: 梅雨明け後直ちに開始し、8月中旬を目途に終える。(7月中旬に実施するのが望ましい。) ①代かき ↓ 土壌を均一化し、石灰窒素の混和をよくするために、代かきを行う。 ②水抜き ↓ 効果を高めるために水は出来る限り落とす。 ③石灰窒素散布 ↓ 石灰窒素は粒状石灰窒素を10a当り200kg施用する。石灰窒素散布は、無風状態である早朝が望ましい。前日に作業を行う場合は、できるだけ遅い時間帯に行う。※石灰窒素散布時には周辺の作物に十分注意すること。 ④耕うん ↓ 石灰窒素と土壌を混和することが目的である。石灰窒素の効果が高まるためにも、石灰窒素散布直後に作業を行う。 ⑤シート被覆 ↓ 処理当日の作業は無風状態である早朝に行うことが望ましい。																																										
褐斑病 ◎収穫後の病茎葉や畦畔雑草は適正に処理する。 ◎病原菌は罹病茎葉で越冬するので、発病田では葉柄を年内に刈取り、畦畔などに残った罹病葉とともに、地中や水中の奥深くに埋設する等の方法で処分する。 ◎初期防除を徹底する。 ◎高温多湿条件の時に発生しやすいので、ハウス栽培では換気を早め温度管理に注意。(特に防除を徹底する)																																											
ハスモンヨトウ ◎発生初期にエコマスター-B T1,000倍(収穫前日まで/ -)またはロムダンフロアブル2,000倍(収穫3日前まで/3回以内)を散布。 イネネクイハムシ ◎成虫発生期6月下旬にトレボン粒剤3kg/10a(収穫14日前まで/3回以内)を散布。多発田では2回散布する。 アブラムシ ◎初期防除の徹底、畦畔、浮草等も同時防除する。																																											
<table border="1"> <thead> <tr> <th>薬剤名</th> <th>FRACコード</th> <th>濃度等</th> <th>使用時期</th> <th>使用回数</th> <th>使用方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>アドマイヤー1粒剤</td> <td>4A</td> <td>4kg/10a</td> <td>収穫14日前まで</td> <td>2回以内</td> <td>散布</td> </tr> <tr> <td>オルトラン粒剤</td> <td>1B</td> <td>4kg/10a</td> <td>収穫14日前まで</td> <td>2回以内</td> <td>散布</td> </tr> <tr> <td>アクタラ粒剤5</td> <td>4A</td> <td>6kg/10a</td> <td>収穫14日前まで</td> <td>3回以内</td> <td>散布</td> </tr> <tr> <td>ウララ粒剤</td> <td>29</td> <td>3kg/10a</td> <td>収穫14日前まで</td> <td>2回以内</td> <td>湛水散布</td> </tr> <tr> <td>ダントツ粒剤</td> <td>4A</td> <td>4~6kg/10a</td> <td>収穫7日前まで</td> <td>3回以内</td> <td>散布</td> </tr> <tr> <td>ダントツ水溶剤</td> <td>-</td> <td>2,000~4,000倍</td> <td>収穫7日前まで</td> <td>-</td> <td>散布</td> </tr> </tbody> </table> ※粒剤の場合は一週間程度、落水しない。 ジャンボトニシ(スクミリンゴガイ) ◎収穫後気温が高いうちに3~4日間湛水した後、石灰窒素60~100kg/10aを水面施用し、2日以上は湛水を保てる程度の浅水とする。 ◎用水路に発生する場合は、地域ぐるみで一斉に捕殺する。	薬剤名	FRACコード	濃度等	使用時期	使用回数	使用方法	アドマイヤー1粒剤	4A	4kg/10a	収穫14日前まで	2回以内	散布	オルトラン粒剤	1B	4kg/10a	収穫14日前まで	2回以内	散布	アクタラ粒剤5	4A	6kg/10a	収穫14日前まで	3回以内	散布	ウララ粒剤	29	3kg/10a	収穫14日前まで	2回以内	湛水散布	ダントツ粒剤	4A	4~6kg/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	ダントツ水溶剤	-	2,000~4,000倍	収穫7日前まで	-	散布	
薬剤名	FRACコード	濃度等	使用時期	使用回数	使用方法																																						
アドマイヤー1粒剤	4A	4kg/10a	収穫14日前まで	2回以内	散布																																						
オルトラン粒剤	1B	4kg/10a	収穫14日前まで	2回以内	散布																																						
アクタラ粒剤5	4A	6kg/10a	収穫14日前まで	3回以内	散布																																						
ウララ粒剤	29	3kg/10a	収穫14日前まで	2回以内	湛水散布																																						
ダントツ粒剤	4A	4~6kg/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布																																						
ダントツ水溶剤	-	2,000~4,000倍	収穫7日前まで	-	散布																																						
<table border="1"> <thead> <tr> <th>薬剤名</th> <th>FRACコード</th> <th>濃度等</th> <th>使用時期</th> <th>使用回数</th> <th>使用方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>スクミノン</td> <td>-</td> <td>4kg/10a</td> <td>収穫45日前まで</td> <td>2回</td> <td>散布</td> </tr> <tr> <td>スクミンベイト3</td> <td>-</td> <td>4kg/10a</td> <td>発生時</td> <td>-</td> <td>散布</td> </tr> </tbody> </table>	薬剤名	FRACコード	濃度等	使用時期	使用回数	使用方法	スクミノン	-	4kg/10a	収穫45日前まで	2回	散布	スクミンベイト3	-	4kg/10a	発生時	-	散布																									
薬剤名	FRACコード	濃度等	使用時期	使用回数	使用方法																																						
スクミノン	-	4kg/10a	収穫45日前まで	2回	散布																																						
スクミンベイト3	-	4kg/10a	発生時	-	散布																																						

FRACコード: 作用機分類(低抗性) 1 MBC殺菌剤(高) 農薬登録内容は、都度変更することがあります。 農薬登録内容は、2022年10月21日現在のものです。
 IRACコード: 作用機分類 1B 有機リン系 4A ネオニコチノイド系 29 フロニカミド

防除等の情報
 病害虫の発生状況、発生予報、防除方法等をお知らせしています。
 ◆徳島県病害虫防除所ホームページアドレス
<https://www.pref.tokushima.lg.jp/taffts/t-boujoshou/>